

第8回 定例ワールドカフェ (6/18) 感想 (2022.7.19 現在)

話題提供：専門職と教師の協働ー ‘チーム学校’ への道のりー

提供者：木下昌美さん

(元自治体職員、自治体SSW、社会福祉士、大阪公立大学 山野則子研究室プロジェクトコーディネーター)

当日参加者：14名

感想 (Google Form) 回答者：7名 (分野_医療5名、福祉2名)

- ・木下先生のお話を聞いて、子供たちどのようにサポートしていけばいいか、行政や学校の状況、地域のおばちゃんたちのハート、今後のアプローチの仕方などとても視野が広がりました。木下先生の活動や考え方が広く学校現場や子供をとりまく日常に浸透していけばいいなあと感じました。
- ・貴重なお話ありがとうございました。まだまだどう行動、どう介入、どう浸透…と課題は盛りだくさんだとも再認識致しましたが、子ども達を守るという方向に国も舵をきっており、まだまだやれることは沢山ある、今後どう変わっていくのだろうとワクワク、未来が楽しみだとも感じました。保護者の立場としても、なかなか学校や先生と関わる機会が少ないので、学校という場がもっとオープンになるよう、保護者としても(の立場を使って笑)学校の中をどんどん知っていこうと思いました。ありがとうございました。
- ・貴重なご発表ありがとうございました。学校現場では、このようなスクリーニングを使用する際は保護者の同意も必要と思います。そうすると、先生方の拒否感はさらに強いことが想像できます。地道ですが研究でのエビデンスの発表と現場の必要性の両方が高まると導入されやすいのかなと思いました。
- ・木下先生、今日はありがとうございました。いつも感じていたもやもやが、先生の研究でデータとして何かの形をしめしてくれたように感じました。現在、市のこども相談(虐待対応の担当課)で心理相談をしています。学校からはなんでもかんでも「そちらでよろしく！」ということが増えている気がします。スクールカウンセラーもいたり、教育相談として発達を見てくれる担当者が教育委員会にいるにも関わらず、保護者に対して「市役所に相談してください」と碌に話も聞かずまわってきます。私も話は一応伺いますが、やはり学校での対応の方がふさわしい・子供への負担が少ないと判断することがあります。これでは保護者はたらいまわしされたと感じかねません。これは、古山先生のおっしゃっていた「仕事を増やす」ことへの抵抗感が関係しているのでしょうか。すべては「こどものため」という共通の目標に向かって、仕事をしているはずなのになぜうまくいかないのでしょうか。うまく連携のとれる校長・教頭先生に出会えたとき、本当に良かったと安堵します。きっと信頼関係が築けたら、今までとは違うやりとりができるのでしょうかね。そのためには結果を示していかななくてはならないとは思いますが。私たちも、現場でやるべきことをやって、少しでも結果を出せるよう努力していきます。スクリーニングの意味がとて

も深く・大切なものであると、世の中に理解される日が早く来ますように願っています。
ありがとうございました。

- ・この度は、貴重なお話ありがとうございました。今回のお話を聞き、教育、行政、医療などさまざまな現場で抱える問題は同じであると再認識致しました。できるだけ早い段階で、問題を抱える子供達を抽出し、必要な支援を早期に行う。そのためには、全ての子供がスクリーニングを受けられるようになることを願います。医療現場でも同じようにハイリスクになる前の妊婦の、スクリーニングを実施しています。点ではなく、線で繋がる支援を連携の力で実現できたらと思っています。草の根活動から、大きな力に！本日はありがとうございました。
- ・あそーとの石原です。感想が遅くなってすみません。貴重なお話ありがとうございました。高校でSSWとして活動する中で、シンプルで取り組みやすいスクリーニングシートの必要性を強く感じています。その点で参考になる点が多々ありました。ただSSWとしての活動の中で難しさを感じているのが、簡単シンプル効果大のスクリーニングシートを準備しただけでは情報が集まるとも言い切れないところです。学校の力学とでもいいたいでしょうか、独特の指揮形態(ピラミッド型ではない。管理職の少なさ。)や、職員の多様性(多様性が求められる場所なので、職員の多様性は必須条件。目的も多様。)により、校内で情報がなかなか動かないという難しさがあると思っています。SSWとして学校組織への働きかけが必要だと思っていますが、体系的にできないというか、結局は教育相談への思いや理解が高い教員に個人的に働きかけて、各学校での情報収集を進めていくということになっています。これが最適解なのかもしれませんが。学校内で仕事を進めていく上で、学校文化への理解の必要性を日々感じているところです。またいろいろと相談させて下さい。ありがとうございました。

>古山先生

最後のグループディスカッションのときに、大成高校の養護教諭と知り合うことができました。うちの活動地域の学校ですので、連携など進められたらなと勝手に思っています。いい機会をありがとうございました。今後も時間が合う限り参加させていただきます。

- ・研究による根拠に基づいたお話で、とても納得しました。中でも、システムを導入しても、「生徒指導主任」と「教科専科担任」は協働意識に変化がなかったという結果は大変興味深かったです。関心無関心の溝を埋める、協働する同僚や他職種が自由に安心して意見交流ができているかを自覚しながら仕事をする…。システム(道具)が良くても、使う人(組織の柔軟性)全員が道具の目的と効果的な使い方を共有しないと宝の持ち腐れになると思いました。学校や教師だけでなく、組織やシステム、道具…、どの分野にも心当たりのある共通点があるなと感じました。無関心な人は別として、一生懸命さが他のチームメンバーの発信を不自由にしているというのはもったいないし、コミュニケーション力は子どもだけでなく、自分も含めて大人になっても必要。日々精進だなと思いました。